

アシとガマが姿を消していくのと入れ替わりに目に入ってきたのは、フキと野菊だった。それらはアシやガマは丈が高いのでもともとその影に生えていたのかもしれないが、水気が引くのと同時に日の光もたくさん当たるようになり勢力を増してきたように思われる。フキと野菊は今のところお互いに侵食し合うようなことはない。ただフキは家を建てる時に水はけの良い場所にするためにたつぷり積み上げた碎石だらけのところに徐々に姿をあらわし、いつのまにか群落をつくってしまった。土などまったくなく他に競争相手の植物がない場所では健気に仲間を増やしてくれたことで殺風景な場所が変わってきたのは嬉しかった。それは単に植物が生えてきたというだけではなかった。フキの大きな葉が冬になり朽ちて徐々に碎石だらけのところに土らしきものができてきたのだ。数年経つとフキだけでなく木々の落ち葉も加わり、風で飛ばされてきたいろいろなタネが小さな芽を出すようになってきた。五年経つて碎石のところにブドウの生垣をつくりたくなくなって穴を掘ったら、上部三センチメートルくらいに黒々としたものができて、いろいろな植物の根がからまつていたのには驚かされた。

最初のフキの群落のすぐ傍に、不思議なサークルを発見した。春の早い時期にオノコと思われる小さな枯れ木を囲むように正確に定規で計ったような円形の緑の群落ができるのだ。時期がたつとそれにオレンジ色の特徴的な花が咲くことでヤバカンゾウの群落だとわかった。敷地の他には見られないそこだけの群落だったのだが、隣で勢力を増してきたフキがそのサークルに侵入し大きな葉をつけるようになり、だんだん元気がなくなつたのかここ数年花を見ない。

野菊の群落は敷地の丁度中央あたりはかなり広い範囲であり、秋になると白や薄紫の花がそこら一面に咲くのは壮観だった。しばらくするとそこにも小さな群落をつくるものが出てきた。ハンゴンソウという植物で妙に丈が高くなりてっぺんに黄色の花を傘状にたくさんつけるのでよく目立つ。最初は小さな群落だったのがだんだん大きくなり、あちらこちらに分家して勢力を拡大しつつある。

この他にも小さいけれどミズバショウやエンレイソウの群落が確認できたが、それらは日陰に育つのであまり競合相手がないのか、今の所はそれぞれに平和に暮らしている。

私たちがこの土地に住み始めて五年しか経っていないのだが、自分たちが暮らしやすいようにと水路を調整したことで、植生が大きく代わり、景色もほとんど変わってきている。条件が変わるとそこに適した植物が競つて自分たちの場所をつくりはじめる。そのなかで丈が高いつか葉が大きいとか、過酷な条件にも適応できるとか優位な資質をもつたものが勢力を増してくる。ただ、セイタカアワダチソウのように勢力を増しすぎて自滅するものもある、そしてそのあと、じっと機会を伺っていたものが台頭する。かれらは常に動いているのだ。それも短期間にかなりダイナミックに。

